【学校名】美深町立美深中学校

【活動の名称】
ネットモラル講習会

【活用した資源】IT 関連会社職員（株式会社 DeNA）

【対象学年と活動の時期】全学年　４月末

			■

（項目エ―観点③環境づくり）

【活動の概要】
・ネット関連の専門家を講師として招き、スマホやインターネットの注意点や危険性を学ぶ。

【ねらい】
・インターネット環境の利用におけるトラブル事例とその回避策について学ぶことで、自らの情報機器の使い方を振り返らせる。
・ネット上での友人とのコミュニケーションの取り方を改善しようとする態度を養う。

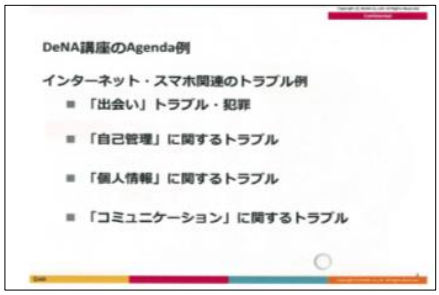
【活動の流れ】
①管理職が窓口となり、IT関連の講師を紹介してもらう。
②講師を招いて、ネットモラル講習会を実施する。

〈講習会の様子〉

ネットモラル講習会
場所：体育館　70 分間
1　生徒入場、着席
2　講師紹介
3　講話
4　質疑・応答
　お礼の言葉
5　講師退席、生徒退場

〈当日のプログラム〉

③講習会終了後の学級活動で振り返るとともに、感想等を学級通信などで紹介する。
④「なくせ！いじめ！ネットトラブルメッセージコンクール」（別プログラム）に取り組ませる。



＜生徒配布資料＞

【生徒の作品】
ゲームじゃない　ここはリアルだ　いじめるな
（２年生女子）
あなたの手　助けるために　使おうよ（３年生男子）
泣かないで　私はあなたの　味方だよ（３年生男子）
いじめをね　見て見ぬふりも　いじめだよ（１年生女子）

＜「なくせ！いじめ！ネットトラブルメッセージコンクール」作品＞

【本活動における成果等（留意点含む）】
・講師から、ネットトラブルの事例等を学んだり、講習会終了後に講話の内容を振り返らせたりすることによって全町で取り組んでいる「なくせ！いじめ！ネットトラブルメッセージコンクール」のメッセージなど、様々な教育活動において自分の考えを十分に考えて書く生徒が増えた。
・ネット上での友人とのコミュニケーションの取り方について、給食時間等で話題に上がる機会が増えた。
・本講習会をきっかけとしてネットに関わる社会問題を参観授業や全体懇談で取り上げ、生徒を取り巻く実態を周知することによって、家庭の理解や協力を得ることにもつながった。

【学校名】小平町立小平中学校

【活動の名称】
「生徒会企画：全校交流会」

【活用した資源】生徒会本部

【対象学年と活動の時期】全学年　５月下旬

	■		

（項目イ―観点②絆づくり）

【活動の概要】
・３日間連続で、昼休みに全学年対象の交流会を実施する。

【ねらい】
・異学年同士で交流することを通して、互いにより深く知り合い、よさを認め合う態度を育む。

【活動の流れ】
①生徒会本部が中心となって集会の内容を考え、準備を進める。
②生徒会新聞を通して内容を把握し、心構えをつくる。
③本集会を実施する。（その場で異学年が交流しながら作戦を考える。）

＜なんでもバスケット＞

昼休み、
全校生徒、
体育館集合！

当日のプログラム
１日目：なんでもバスケット
２日目：だるまさんの１日
３日目：お絵かきですよ

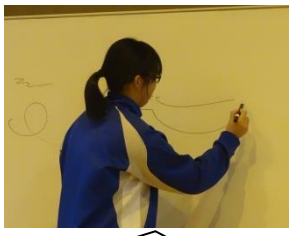
学年を問わない「お題」が出され、全校生徒が一斉に動きます。「普段仲の良い者同士」の座席がどんどん知らない人と隣同士になっていきます。

＜だるまさんの１日＞

４つ角に鬼がついて、４か所で同時にスタート。
遊びですから先輩後輩なし！
みんな笑顔です。

＜お絵かきですよ＞

誰が絵を描くのか、話合い中。ゲームそのものより、このような異学年の話合いが大切。



恥ずかしがらずにみんなの前で絵をかけるのも、人間関係あってのこと

【本活動における成果等（留意点含む）】
・全学年で一緒に活動する企画を行うことにより、部活動や生徒会、行事などで関わりのない人同士が交流するよい機会となった。
・学年が上がるにつれ、「後輩と関わろう」「声をかけてあげよう」とする心構えをつくっておかないと、ただの遊びの時間となってしまう。また、できる限り全員が楽しめる内容を考える必要がある。（スポーツなど一部の「得意な人」が盛り上がって終わるような企画にならないように留意する。）

【学校名】小平町立小平中学校

【活動の名称】
「販売体験学習」

【活用した資源】
教師、町役場、教育委員会、地元企業

【対象学年と活動の時期】３年生　６月～９月下旬

		■	

（項目ウ―観点③環境づくり）

【活動の概要】
・地域の特産品を、修学旅行で訪れた札幌で販売する。

【ねらい】
・地域のよさを知り、地域の方々と協力して取り組む。
・部署ごとに専門的な活動をすることを通して互いに協力するとともに、互いのよさに気付く。

【活動の流れ】
①学級を会社組織に見立て、グループを作る。
②地元企業や教育委員会と連携し、販売する商品を決定する。
③販売会を実施する。

＜プレゼンテーション＞

地域の方に対して趣旨をプレゼンしている様子

＜マーケティングリサーチ＞

道の駅で利用客にインタビューをしている様子

＜繰り返される打合せと準備＞

互いに得意分野を生かして協力しながら作業している様子

＜当日の販売の様子＞

準備や呼び込みも協力して行っている様子

【本活動における成果等（留意点含む）】
・学級を会社組織に見立て、１人１役を担うことで責任感が生まれるとともに協力する姿勢が高まった。また、自分の得意分野を生かした仕事を行うことで互いのよさを再認識する機会となった。
・町役場や地域の企業と連携することで、地域の大人たちとの関わりを深めるとともに、地域のよさを再認識することができた。

【学校名】枝幸町立枝幸中学校

【活動の名称】
食育指導

【活用した資源】枝幸漁業組合、栄養教諭

【対象学年と活動の時期】地産地消は２・３年　７月・９月

		■	

（項目ウ―観点③環境づくり）

【活動の概要】
・地産地消に関する調理実習や食育指導を行う。

【ねらい】
・地産地消と関連させた活動を通して、地域のよさに気付き、協力してくれる地域の人たちに対して、尊敬や思いやりの心をもつことができる。
・地域の人たちとの交流を通して、自己有用感を高めることができる。

【活動の流れ】
① 家庭科の調理実習と地産地消を関連付けて指導する。
② 食育指導については栄養教諭と、地産地消については漁業組合などと連携し、取り組めるようにする。
③ ２年生は、「鮭とばづくり」、３年「ホタテ料理」に取り組む。

＜鮭とば・地域講師の方と作業＞

④ 地元の産物を使った調理を通して、地元のよさを実感する。

自分たちでホタテを剥きました。

鮭とばを自分たちで加工しました。

⑤ 漁業組合に礼状などを送付し、来年度以降も協力してもらえるようお願いをする。

生徒の礼状から
・ホタテのバター焼きがおいしかったです。自分でも、工夫して料理をつくってみようと思いました。
・初めて鮭をさばくことができました。あまりうまくできなかったけど、よい勉強になりました。
・自分たちで作ったトバのできあがりが楽しみです。講師の先生ありがとうございました。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・自分の地域を愛する気持ちが育った。
・仲間や地域の方とコミュニケーションを図る機会となった。
・講師の方への感謝の気持ちを持つことができた。